生殖における価値観と生活背景との関連
～代理出産について～

06417571 三谷久美子　　指導教員 中塚幹也教授

【緒言】

現在の日本には代理出産についての法律はないが,代理出産は認めないという方向性を打ち出している。

しかし，代理出産は2008年4月5日時点で，根津医師が公表したものだけでも 15 例，日本人の海外での代理出産も年間100例以上が実施されているといわれている。

近年このような報道がメディアに取り上げられたことで,代理出産についての意識・価値観も変わりつつある。そこで,代理出産に関する法整備が不十分な中,時代のニーズに合わせた規制を整備していくことが重要である。

本研究では，このように，現在の日本で社会問題になっている多くの生殖に関わる問題の中でも代理出産を取り上げ，これから結婚や出産という生殖に関するライフイベントをひかえている高校生，大学生の代理出産に対する価値観の実態と，それに生活背景が関与しているかを検討した。

【方法】

2008年6月～2008年9月に，高校生・大学生を対象に，無記名の自己記入式質問紙調査を行った．回収率は98.6%(1351/1370名)であった。

統計学的解析には，χ^2検定を用い，p値が0.05未満の場合を有意，0.1未満の場合は傾向とした。

尚，本研究は，岡山大学医学部保健学科倫理委員会の承認のもと施行した。

【結果】

1．対象背景

年齢は，17.2±2.6(mean±S.D.)歳「15～53」であり，総数 1,351 名であった。そのうち男性35.8%(483 名/1,351 名)，女性 61.1%(826 名/1,351名)，高校生68.8%(930名/1,351名)，大学生31.2%(421名/1,351名)であった

2．代理出産に対する肯定感に関して

第3者女性による代理出産について肯定的にとらえているのは,「自分なら」47.2%(631/1,338),「一般的には」57.2%(766/1,336)，実母による代理出産について肯定的にとらえているのは,「自分なら」19.1%(254/1,332)，「一般的には」23.8%(317/1,332)だった。

3.背景と代理出産に対する肯定感に関して

性別や,家族･友人との関係性,など23項目について質問し,恋人の有無,対児感情など 6 項目で,関連性が見られた。

4.孤独感と代理出産に関して

孤独感の強さによる代理出産に対する肯定感に明らかな差は見られなかったが，人と分かり合えると思うかどうかといった孤独感の性質によって分類されたA型・B型・C型・D型間で，代理出産に対する肯定感との関連性が見られた。

5．時間的展望と代理出産に関して

全体的な時間的展望と，その下位尺度である目標指向性，将来に対する希望の有無の違いによって代理出産に対する肯定感も異なっていた。

【考察】

代理出産を実母に依頼することは，一般的な代理出産である第３者への依頼に比べ，現時点では抵抗感が強いと考えられた。また，高校生・大学生という若い世代の代理出産に対する肯定感は今まで報告されているものとほぼ同じであり，最近の報道などにより関心は高まっているものの，肯定感には大きな変化は出ていないと考えられる。

また､生活背景と代理出産の肯定感に関しては,8 項目で関連性が見られ，生活背景による家族関係や赤ちゃんに対する感情が代理出産に対する肯定感に大きく影響を与えるということがわかった。

孤独感と代理出産に対する肯定感に関しては,孤独感が強いかどうかというだけでなく，孤独感の性質と強い関係性があることが明らかになった。

最後に，時間的展望と代理出産に対する肯定感に関しては,時間的展望に優れている人のほうが,実母による代理出産により否定的であるというというような結果から，現実性や将来に対する想像力が代理出産に対する肯定感にも影響を与えるのではないかと推測された。

【結論】

パートナーとの関係性や対児感情,家庭環境,障害への理解,「家意識」の継承といった生活背景や孤独感の分類，時間的展望と将来に対する希望や目標意識が代理出産に対する肯定感に影響を及ぼすことがわかった。

本研究で明らかになった生殖に関する価値観の実態とそれに関与する背景が，今後の代理出産に関する規制作りに役立つことを期待したい。